

目次

研究紀要 千葉大学教育学部

平成26年

第62巻

I. 教育科学系

●地域学習を軸とした社会科・地理教育カリキュラムの創造……………竹内 裕一	1
●特別支援学校における保健室での実践的指導について……………三神山英実・杉田 克生・石井 夕貴	13
●保護観察における専門的処遇プログラムの効果測定のあり方……………羽間 京子・勝田 聡	17
●覚せい剤事犯者の処遇効果に関する研究の現状と課題……………勝田 聡・羽間 京子	23
●日本におけるSTS教育研究・実践の傾向と課題……………内田 隆・鶴岡 義彦	31
●「いじめ問題」をどう捉えるか……………磯邊 聡	51
—教育臨床の現場から—	
●慰めが受け手に与える効果の要因……………小川 翔大・中澤 潤	59
—半構造化面接による探索的検討—	
●発達障害を持つ子どもの言動から教師が受ける感情と教師への支援について……………酒井 香奈・野崎とも子	67
●知的障害特別支援学校における自立活動の現状と教員の課題意識(Ⅱ)……………今井 善之・生川 善雄	75
●発達初期の個人差の要因及び望ましい養育環境についての考察……………長根 光男	85
—環境要因は、遺伝子発現としての発達に影響を及ぼすか—	
●ホーリネス系教会に関わる高齢クリスチャンの「キリスト教における宗教性」……………松島 公望・宮下 一博	91
●対人恐怖心性を抱える大学生女性のアイデンティティ形成過程：事例を通しての一考察……………山田 裕子・宮下 一博	99
●宗教的实践が精神的健康(不安および主観的幸福感)に与える影響……………松島 公望・小林 正樹・宮下 一博	107
—仏教系新宗教A教団信者における準実験研究—	
●児童養護施設視察により養護教諭を目指す学生が得た学びの学年比較……………小川 昂子・工藤 宣子	117
●通信制高校におけるボランティアによる学習支援……………土岐 玲奈・保坂 亨・滝本 信行	121
●児童間の話し合いにおいてネガティブな感情を含む意見表明がどのようになされるか：2年生及び5年生の葛藤状況での話し合いの事例から……………岩田 美保・古重 奈央・鶴島 規晃	129
●脳性麻痺の疫学についての研究動向(2)……………平田 正吾・奥住 秀之・北島 善夫・細渕 富夫	133
—1990年代における我が国での調査についての文献検討—	
●養護教諭の行う連携に関係する用語と連携推進要因の整理……………山田 響子・鶴岡 和世・齊藤理砂子・岡田加奈子	139
●教育現場経験者による大学の授業改革……………鈴木 隆司	147
●地域で育つ・地域を創る「乳幼児教育におけるESD」……………富田 久枝・上垣内伸子・片山 知子・吉川はる奈	155
—日本の保育における継承と創造を目指して—	
田爪 宏二・名須川知子・鈴木 裕子・藤原 照美	
西脇 二葉	
●ミュージカル制作のための編曲……………岡部 裕美	163
●大学生におけるスポーツ行動……………西野 明	173
—体育・スポーツ専攻学生と一般学生との比較—	
●教員養成におけるESD指導向上のための教材開発：小学校家庭科の授業づくり……………伊藤 葉子・中山 節子	177
●就学前教育と小学校教育の連続性を考慮した算数教育プログラム案……………松尾 七重	183
—数と計算、量と測定領域を中心にして—	
●中学生のための地域学習と自文化理解……………植木 節子・高橋 博代	191
●TWINCLE国際交流プログラムにおける日本人学生の“Tensions”に対する価値観の変化……………ヒワティグ エイプリル ダフネ フロレスカ	201
山野 芳昭・大島 竜午・馬場 智子・山田 響子	
飯塚 正明・加藤 徹也・下永田修二・野村 純	
山下 修一・ホーン ベヴァリー	
●グローバルな視点をもった理科教員養成プログラムの構築……………大嵐 竜午・山野 芳昭・馬場 智子	209
—授業構成と学生の取り組みを中心に—	
ヒワティグ エイプリル ダフネ フロレスカ	
山田 響子・飯塚 正明・加藤 徹也・下永田修二	
野村 純・山下 修一	

●国境を越えた大学間連携のネットワークに中等教育機関を組み込むことの意義について……………	馬場 智子・山野 芳昭・大寫 竜午 ヒワティグ エイプリル ダフネ フロレスカ	215
—TWINCLEプログラムを事例に—	山田 響子・飯塚 正明・加藤 徹也・下永田修二 野村 純・山下 修一・ホーン ベヴァリー	
●自己組織性理論と学級経営……………	蘭 千壽・杉本 成昭	221
●創発型学級における信頼研究……………	蘭 千壽・高橋 知己	231
●多様な言語材を活かした国語科指導の可能性について(1)……………	森田 真吾	239
—国語教科書と多様な言語材との関係—		
●元結の初期作品における諷諭……………	加藤 敏	418
—王朝への求心性—		

Ⅱ. 人文・社会科学系

●『トリストラム・シャンディ』の遊びの精神……………	平出 昌嗣	249
●田柄川流域開発史……………	井上 孝夫	255
●小学校外国語活動に関する掲示物の語彙分析……………	本田 勝久・山本 長紀・星加 真実・寺井 千景	265
—「学びに繋がる掲示物」の作成に向けて—		
●共働き夫婦の夫の家庭生活への関与を妨げる仕事の状況……………	久保 桂子	271
●ハノイ中学生の都市環境意識について……………	松本みどり・吉田 雅巳	277
—日越中学生の環境意識の比較から—		
●中高生向け科学講座（英語で学ぶ科学と実験）の実践とそのCLILの視点……………	大井 恭子・加藤 徹也・小林いづみ	283
●アジア6カ国の生活時間国際比較……………	中山 節子	293
—インド生活時間ミクロデータを用いて—		
●不登校を経験した若者に対する継続的支援の意義と課題……………	福岡 朋行・松井 美穂・笠井 孝久	301
●バリューチェーンの視角からみる世界カカオ産業の構造と動態(1950-2012)……………	妹尾 裕彦	309
—コーヒー産業との比較もふまえて—		
●専門力を基盤とした「連携・コーディネート力の向上」を目指す養護教諭研修プログラムとその評価……………	岡田加奈子・山田 響子・工藤 宣子・岩崎 順子 國吉 正彦・酒井 一成・朝倉 隆司・竹鼻ゆかり 三村由香里・松枝 睦美・上村 弘子・齊藤理砂子 鎌塚 優子・小橋 暁子・佐瀬 一生・高橋 浩之 花澤 寿・藤川 大祐・茂野 恵・須貝 仁美	329
●小中高における政策教育課程に関する一考察……………	磯崎 育男	337
—「水と政策」を事例として—		
●中学生のための英語のデータ駆動型学習の実践と成果……………	西垣知佳子・國兼 朝子・吉田 壮一・眞田のり子 中條 清美	345
●「地域」から「領域」へ……………	佐藤 宗子	410
——一九六〇年代青少年向け翻訳叢書における「教養」の転換——		

Ⅲ. 自然科学系

●ミネラル摂取量の推移とヤマトシジミ可食部に含まれるミネラル……………	米田 千恵・金子真由美・坂本 千明	355
●学習指導要領改訂に伴う中学校での放射線教育の実態調査……………	石田 菜摘・杉田 克生・高橋 博代	361
●色素増感太陽電池の作製教材の考察……………	飯塚 正明・本島 明典	367
●超低周波～中波帯変動磁場のマウス生殖器官への影響……………	畑中 恒夫・渡部 逸平・渡邊 亮太	371
●ボルタの電池の亜鉛の溶解反応の可視化……………	鈴木浩太郎・林 英子	377
●ネパール・テライ低地における地下水ヒ素汚染……………	濱田 浩美・中村 圭三・駒井 武・大岡 健三 谷口 智雅・谷地 隆・松本 太・戸田 真夏 松尾 宏・ギミル ハリ パラサド	385

Ⅳ. 芸術系

●幼児期の造形体験が中学生に及ぼす影響Ⅱ……………	小橋 暁子・檜 英子	393
—抽出児による検討—		

研究活動状況